

第5章 防災啓発・教育活動

1 展示会への出展

- 1 建設技術フェア 2007 in 中部 (国土交通省他 主催)
平成 19 年 11 月 7 日 - 8 日 (ナゴヤドーム)
「地震情報活用による地震防災力の向上」
- 2 産学交流テクノフロンティア 2007 (愛知県・名古屋市・名古屋商工会議所主催)
平成 19 年 11 月 28 日 - 30 日 (吹上ホール)
「地震情報活用による地震防災力の向上」

両展示会に出展し、地震防災コンソシアムの取り組みや企業防災と産学連携による技術開発計画などを紹介した。



写真 7. 産学交流テクノフロンティアの様子

2 大学連携国際ワークショップ報告

正木和明

1. 経緯

愛知工業大学、関東学院大学、神奈川大学において3つの文科省私立大学学術研究高度化推進事業が同時期に採択された。3つのプロジェクトには以下の共通点がある。テーマが地震防災であること、それぞれのプロジェクトのリーダーはかつて海外において地震災害に関する調査研究を10数年にわたって共同で推進してきたことである。平成19年の春、3人が集まる機会があり、3つのプロジェクトが連携してワークショップを開催することが企画された。一方、サイスミックマイクロゾーネーションに関する共同研究が東工大を中心に数年にわたって実施されてきたが、そのメンバーの多くがこの3つのプロジェクトのメンバーでもあった。また、海外の共同研究者も多くが重複していることから、折角の機会を活用して、4つのプロジェクトが連携してワークショップを開催することとなった。

2. 開催大学のプロジェクト

(1) 愛知工業大学産学連携推進事業（2004～2008年度）

テーマ：地震情報配信と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発

リーダー：工学部都市環境学科 正木和明教授

(2) 神奈川大学学術フロンティア推進事業（2005～2009年度）

テーマ：災害リスク軽減を目的としたソフトハード融合型リスクマネジメント

リーダー：工学部建築学科 荻本孝久教授

(3) 関東学院大学学術フロンティア推進事業（2004～2008年度）

テーマ：都市・建築のストック再生を目的とした環境共生技術の戦略的開発研究

リーダー：工学部建築学科 精木紀男教授

(4) 東京工業大学

テーマ：サイスミックマイクロゾーニング

リーダー：総合理工研究科 瀬尾和大教授

3. ワークショップのテーマ・日程・場所・参加者

経緯で述べた事情からワークショップは二つに分けられ開催された。

(A) 第7回国際共同ワークショップ「サイスミックマイクロゾーニングと減災」

(B) 3大学連携ワークショップ「地震災害とリスクマネジメント：市民と企業の防災力向上に向けて」

なお、期間中に地域防災研究センター見学会、親睦パーティが開催され、ワークショップ終了後には、根尾谷断層見学エクスカーションが実施された。プログラムの詳細をワークショップポスターに示す。

○開催日 2008年2月28日（木）～2008年3月2日（日）

○開催場所 愛知工業大学八草キャンパスおよび本山キャンパス

○プログラム プロジェクト紹介（4編）、基調講演（1編）、招待講演（4編）、一般発表（22編）、ポスター発表（25編）、エクスカーション

○参加者 国内大学関係者38名、海外大学関係者7名、その他の機関からの参加者8名

4. ワークショップの概要

○ 2月27日

東京の3大学の参加者および海外からの参加者が名古屋に集合、名古屋ガーデンパレスに宿泊した。

○ 2月28日

第7回国際共同ワークショップが朝から開催された。瀬尾東京工業大学教授が最近の地震災害とサイスミックゾーンーションの重要性について講演された後、スペイングラナダ盆地における微動観測から始まった共同研究の歴史について紹介された。引き続き、一般講演が発表された。質疑応答が盛んに行われ終了時間は2時間も大幅に遅れた。会場ロビーではポスターセッションが開催された。夕方は昨夜の居酒屋で議論の続きを行った。

○ 2月29日

図1

大学連携国際ワークショップ

I 第7回国際共同ワークショップ：「サイスミックマイクロゾーニングと減災」
7th International Joint Workshop "Seismic Microzonation and Risk Reduction"
主催 東京工業大学、愛知工業大学、神奈川大学、関東学院大学
2月28日(木) 愛知工業大学本山キャンパス
10:30～18:00 一般講演発表

II 3大学連携ワークショップ：「地震災害とリスクマネジメント、市民と企業の防災力向上に向けて」
Three Universities Joint Workshop "Earthquake Disaster and Risk Management"
主催 愛知工業大学、神奈川大学、関東学院大学
2月29日(金) 愛知工業大学AITプラザ3階
13:00～ 地域防災研究センター見学及び受付
14:00～ 開会挨拶 愛知工業大学地域防災研究センター長 (挨拶 愛知工業大学副学長)
14:20～ 愛知工業大学産学連携推進事業紹介
「地震情報配信と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発」
15:20～ 神奈川大学学術フロンティア推進事業紹介
「災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメント」
16:20～ 関東学院大学学術フロンティア推進事業紹介
「都市・建築のストック再生を目的とした環境共生技術の戦略的開発研究」
17:30～ パーティ (地域防災研究センター)
3月1日(土) 愛知工業大学本山キャンパス
9:30～ 基調講演 入倉幸次郎(愛知工業大学客員教授)「日本の強震動研究の現状」
10:10～ 招待講演 Francisco Vidal (スペイン グラナダ大学)
10:50～ 招待講演 Angelito S. Lanuza (フィリピン火山地震研究所)
11:20～ 招待講演 Javier Salgado-Paraja (メキシコ ミステカ大学)
11:50～ 招待講演 叶 程紅 (中国 東南大学)
12:20～ (昼食、ポスターセッション発表)
14:00～17:00 一般講演発表

III エクスカーション
3月2日(日) 8:00名古屋駅～根尾谷断層観察館～うずみ温泉(昼食)～名古屋駅16:00着
<参加予定大学>
首都大学東京、グラナダ大学(スペイン)、アルメリア大学(スペイン)、ミステカ大学(メキシコ)、フィリピン火山地震研究所(フィリピン)、エチオピア大学(エチオピア)、東南大学(中国)

ワークショップのポスター

午前中は休み。午後から地域防災研究センターの見学会が開催された。2時から場所をAITプラザ会議室に移し、プログラムが開始された。最初に、稲垣副学長から挨拶があり、引き続き3人のリーダーからそれぞれのプロジェクトの報告がなされた(関東学院大学は精木教授に代わり松田教授が報告された)。5時30分から、地域防災研究センター1階においてパーティが開催された。企業からの参加者も加わり国際会議の雰囲気味わっていただいた。

○ 3月1日

場所を本山キャンパスに移して、9時30分からプログラムが再開された。入倉教授が強震動レシピの考え方について講演された。引き続き、グラナダ大学 Vidal 教授、フィリピン火山地震研究所 Lanuza 研究員、ミステカ大学 Salgado 教授、東南大学叶教授が自国の地震防災研究の現状について講演された。昼食を近くのチェーン店でとった後、午後入倉教授に飛び入りで中越沖地震と原子力発電所の問題について講演いただいた。その後、一般発表が行われた。会場ロビーではポスター発表が開催された。

○ 3月2日

8時半に名古屋駅に集合し、大垣で樽見鉄道に乗り換えた。参加者が20数名であったのでレイルパス切符の購入に時間がかかったが、雪も残る溪谷美を楽しみながら水鳥で下車した。博物館で根尾谷断層トレンチを見学、外に出て断層崖を歩いて見学した。迎えるバスで茶畑の折れ曲がりを見学し、薄墨温泉で昼食を取った。温泉に浸かった後、樽見鉄道で大垣に向かい、名古屋駅で解散となった。

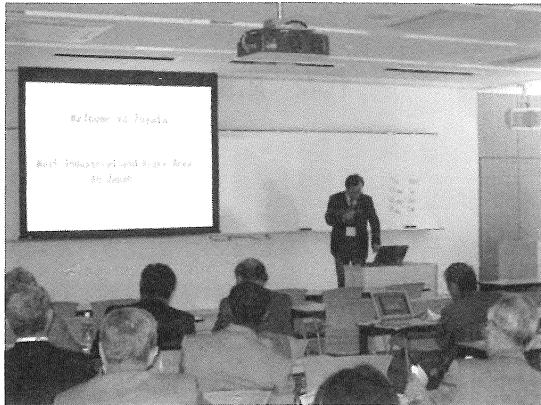


写真1 ワークショップの発表風景

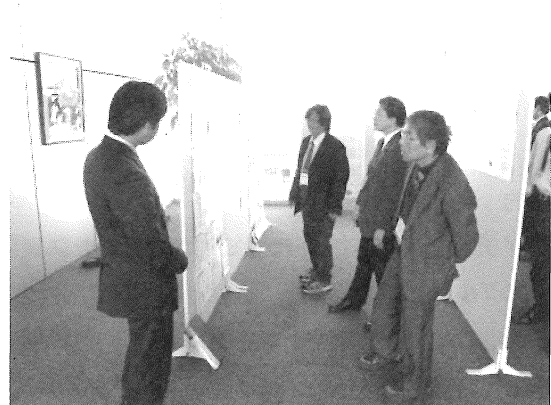


写真2 ポスター発表風景



写真3 パーティ会場風景



写真4 根尾谷水鳥断層見学会参加者一同景

5. ワークショップの評価

今回のワークショップは10数年来の仲間が偶然にも同じ時期に文科省私立大学学術研究高度化推進事業のリーダーとなったことが発端である。連携することで最小の資金で最大の成果を引き出せるとの目論見による企画であったが、予期せぬ高い評価を受けた。

学長会議では、すばらしい企画であり学内で大いに宣伝すべきだとの評価を得た。また、本学の他の私立大学学術研究高度化推進事業プロジェクトリーダーからは、そのような企画があるとは思いつかなかったとの言をいただいた。あるリーダーからは、「継続申請の時文科省から“同じテーマの他大学と連携すべき”とのコメントを受けたことがあるが、まさに本企画はそれにあたり文科省の評価も高いのではないか」とのコメントをいただいた。今回の主催4大学でも評価は高く、次回スペインで開催されることが決まった。

謝辞

本ワークショップは、4大学がそれぞれ予算を出し合い実現した企画である。外国からの研究者招聘経費はそれぞれの大学で負担したものである。また、東京・横浜地域から多数の参加をいただいた。此処に関係者に謝辞を表します。

3 学生ボランティア「アイテックス」活動報告

代表 広重忠俊・顧問 正木和明

1. 目的

アイテックス (AITECS) は愛知県が企画した防災カレッジを卒業した本学学生によって設立された防災ボランティアグループである。既に防災カレッジは閉校されたためカレッジ卒業生以外の参加も積極的に行いながら活動を推進している。現在、災害地における支援活動は実施しておらず、防災フェスタなどの市民活動への参加、地域防災研究センターの活動補助、コンソシアムせとの活動への参加、などを行っている。

2. 活動実績

H18 年度にはチャレンジプロジェクトに採用され工場設備であるスライダーを振動台に転用した電動式小型振動台を開発した。また H18 年度にはコンソシアムせとの大学生によるまちづくり活動応援助成金に採用され市民防災学習支援活動を展開してきた。また、オープンキャンパス、防災親子教室などの手伝いも行ってきた。

3.2007 年度活動報告

- 6 月 17 日 (日) 6 大学合同の大楽祭に愛知工業大学代表として出展 (瀬戸蔵)
- 7 月 6 日 (金) 東保見小学校見学会手伝い (地域防災研究センター)
- 8 月 4 日 (土) 愛知工業大学体験ワールド手伝い (地域防災研究センター)
- 10 月 6 日 (土) 市民交流フェスタに出展 (パルティセと)
- 10 月 14 日 (日) 大学祭工科展で発表 (愛知工業大学)
- 11 月 8 日 (木) 大畑小学校見学会手伝い (地域防災研究センター)
- 1 月 13 日 (日) 瀬戸消防出初式防災 PR コーナーに出展 (パルティセと)
- 1 月 26 日 (土) せと市民活動連絡会で発表 (パルティセと)
- 1 月 26 日 (土) 中村区生涯学習センター講演会補助 (荒子コミュニティーセンター)
- 3 月 5 日 (水) まちづくり施策協働プログラム / 大学生によるまちづくり活動応援助成金活動成果報告会で
19 年度成果報告 (パルティセと)
- 3 月 14 日 (金) 瀬戸保健所研修会模擬実験 (瀬戸保健所)
- 3 月 20 日 (木) 長久手消防防災フェスタに出展 (長久手町役場)

4. 活動評価

センターの企画である体験ワールドや小学校見学会の手伝いに積極的に参加し成果を挙げた。コンソシアムせとの活動成果発表会では地道な活動が審査委員から高く評価され、他大学と比較しても成果を挙げることができた。

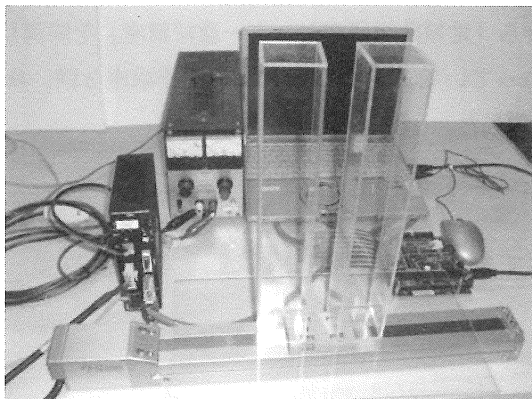


写真1 電動振動台と転倒家具模型

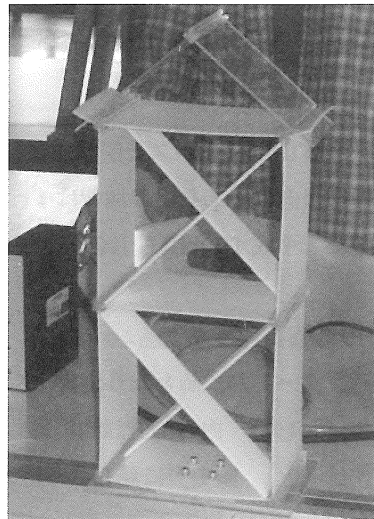


写真2 2階建て家屋模型



写真3 東保見小見学会

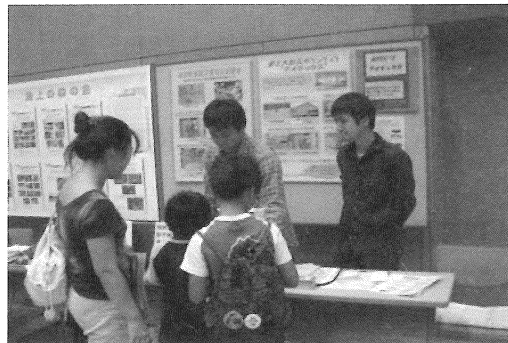


写真4 交流フェスタ 2007 出展コーナー



写真5 消防出初式出展コーナー



写真6 大楽祭出展コーナー

4 公開講座「地域防災研究センター連続講座」の開講

愛知工業大学本山キャンパス公開講座に平成18年度から「地域防災研究センター連続講座」を開講している。講座は一般市民向けであり、参加費は1回1,500円となっている。平成18年度には春季講座3回、秋季講座3回を開講した。平成19年度も引き続き下記の講座を開講した。

1. 平成19年度講座春季講座

正木センター長が講師となり災害よもやま話と題して3回の講座が開催された。

5月22日(火) 内外の記録的災害

6月5日(火) 歴史書に見られる巨大災害

6月19日(火) 災害研究の裏話

2. 平成19年度特別講座

平成19年度10月から緊急地震速報が一般に公開されることから緊急に講座を開催し、正木センター長が講義を行った。

9月28日(金) 緊急地震速報を体験しよう

3. 平成19年度秋季講座

要援護者対策とボランティア活動と題して3名の講師による連続講座を開講した。

10月9日(火) 震災時の要援護者の行動(愛知工業大学建部謙治教授)

10月23日(火) 災害時のボランティア活動(NPO法人レスキューストックヤード代表栗田暢之氏)

11月6日(火) 要援護者と避難所のあり方(社会福祉法人AJU自立の家 菅沼良平氏)

地域防災研究センター講座

●災害よもやま話
本講座ではこれまでセンターが行っている防災研究の最前線について紹介してきましたが、今回は災害にかかわる雑学をやさしくお話しします。

■開講日
①5月22日(火)「内外の記録的災害」
最大の地震、最高の津波、最多の死者災害など、日本、世界で発生した最大の災害は何か、死者45万人の中国地震などについて紹介します。

②6月5日(火)「歴史書に見られる巨大災害」
聖書、中国史書、日本古文書などに記された逸話、事件、実は最大災害の発生を示しているのではないかと考えられます。ソドムとゴモラの町はなぜ滅びたのか?歴史のロマンを語ります。

③6月19日(火)「災害研究の裏話」
諸島孔明、聖徳太子などの先人が残した逸話を紹介します。関東地震の予知をめぐる学者たちの熱い論争など、災害研究の歴史を振り返ります。

【講師】愛知工業大学地域防災研究センター長 正木 和明
■開講時間/15:30~17:00
■受講料/3回通し4,000円(1回1,500円) ■募集定員/50名

地域防災研究センター講座

●要援護者対策とボランティア活動
災害時における要援護者(子供、高齢者、障害者等)の救助活動や避難所における支援活動は災害が発生するたびに問題になっています。要援護者に対する必要な対策や活動、これを助ける市民やボランティア団体の活動について専門家が活動事例を紹介します。

■開講日
①10月9日(火)「震災時の要援護者の行動」
【講師】愛知工業大学工学部都市環境学科教授 建部 謙治
②10月23日(火)「災害時のボランティア活動」
【講師】NPO法人レスキューストックヤード代表 栗田 暢之
③11月6日(火)「要援護者と避難所のあり方」
【講師】社会福祉法人AJU自立の家 菅沼 良平
■開講時間/15:30~17:00
■受講料/3回通し3,000円(1回1,200円) ■募集定員/50名

5 親子参加型見学会

地域防災研究センターでは地震防災教育啓蒙活動を推進している。特に、小学生を対象にした見学会や体験入学など親子参加型学習を積極的に開催している。センター1階は当初より市民支援室として設計しており、40名程度の講座を開講できるようになっている。また、体験型学習を行えるように、各種の学習用模型、防災資料、地震体験振動台などを整備してきた。これらの実績から毎年体験学習の申し込みが増加し、成果を挙げている。2007年度は以下の企画を実施した。

1. 東保見小学校（2007年7月6日（金）10:00～11:30）

小学生6年生の2クラス73名が先生に連れられてセンターを訪問した。学習はセンター1階および9号館1階に分かれて実施された。センターでは緊急地震速報の見学、振動台を使っての地震体験、手回しぶるるを用いた家具転倒実験を勉強した。9号館では社会福祉法人AJU自立の家の菅沼氏を招き、障害者の避難所における体験と紙ぶるるを用いた家の振動実験を行った。

2. 体験ワールド（2007年8月4日（土）10:00～12:00）

大学全体で一斉に行われた体験ワールドの一環として参加した。「地震を科学しよう」と題して体験学習を実施した。親子、兄弟、祖父母約40名の参加があった。4つのグループに分けて、緊急地震速報の勉強、振動台による地震体験、手回しぶるるによる家具転倒実験、ダンボールによる避難所仕切り壁の立ち上げを体験した。待ち時間を利用して紙ぶるる模型の作成も実施した。最後にセンターの免震構造を見学して解散した。

3. 大畑小学校（2007年11月8日（木）11:30～12:30）

大学駅伝に参加した後、5・6年生約35名がセンターを訪問した。昨年度に引き続く2回目の企画であり、今後定着して行くと期待される。



写真1 東保見小学校（溝口撮影）



写真2 東保見小学校（溝口撮影）

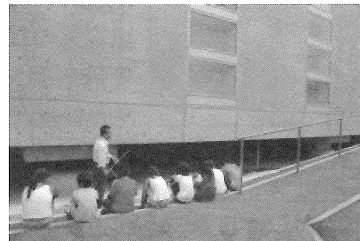


写真3 東保見小学校（溝口撮影）



写真4 東保見小学校（溝口撮影）



写真5 体験ワールド



写真6 大畑小学校

6 平成 19 年度 マスメディア取材 一覧

記事

日付	記事の標題	掲載新聞
2007年4月6日	企業防災システム拡充	日刊工業新聞
2007年5月15日	愛知工業大学三河・尾張に 24社防災情報システム	中部経済新聞
2007年9月1日	巨大地震に備え35組織スクラム	読売新聞
2007年9月14日	身の安全の確保を優先することが大切	読売新聞
2007年9月23日	緊急地震速報揺れる対応	読売新聞
2007年9月26日	緊急地震速報 減災への挑戦	静岡新聞
2007年9月30日	緊急地震速報活用手探り	朝日新聞
2008年2月2日	将来の地震発生探る	岐阜新聞
2008年2月9日	せんべいで動き実感	岐阜新聞
2008年2月29日	地震情報を活用した企業防災力向上技術開発	名古屋産業化学研究所 中部 TLO

報道

日付	番組名	内容	報道機関
2007年5月11日	はやみみラジオ！水野晶子です。「緊急地震速報と放送局の悩み」	正木センター長のインタビューと2006年12月に愛知工業大学で実施された緊急地震速報を利用した避難訓練の様子が放送された。	MBS 毎日放送
2007年7月18日	スーパーニュース	愛知工業大学の緊急地震速報放送システムについて報道された。	東海 テレビ
2007年8月26日	ラジオサンキュー	緊急地震速報についての正木センター長のインタビューが放送された	尾張東部 放送
2007年8月27日	イッポウ	廣内大助客員研究員による猿投・境川断層の解説が行われた。	CBC
2007年9月1日	NHK スペシャル 想定外の揺れが原発を襲った～柏崎刈羽からの報告～	原発で何が起きたのか、なぜ想定以上の地震波が襲ったのか、柏崎刈羽原発の最新報告から浮かび上がった課題が検証された。 (入倉客員教授出演)	NHK
2007年9月1日	迫り来る！巨大地震7	番組内で猿投・境川断層に関する解説を当センターの廣内客員研究員が行いました。	CBC
2007年9月30日	報道特集	地域防災研究センター Ai-SYSTEM 導入企業の緊急地震速報の取組みが紹介された。	CBC (TBS)
2007年10月8日	ラジオサンキュー	10月1日より緊急地震速報がスタートし、週間がたち、各メディアのや施設の反応や一般への浸透ぶりなどを正木センター長が話した。	尾張東部 放送
2007年10月31日	イッポウ	番組内で、10/31に行われた愛知工業大学第二回緊急地震速報を活用した避難訓練の様子が放送された。	CBC
2007年12月13日	「UP！」	11月20日に行われた、第2回あいぼう会勉強会の様子が放送された。	メーテレ

地域防災研究センター委員 講演会等リスト

【正木和明】

- 東海市臨海工業地帯安全連絡協議会防災講演会、「緊急地震速報の活用について～地震が来ます 10, 9, 8、・・秒」,
2007 年 4 月 18 日
- 愛知工業大学公開講座地域防災研究センター講座、「地震よもやま話 内外の巨大災害」, 2007 年 5 月 22 日
- 愛知工業大学公開講座地域防災研究センター講座、「地震よもやま話 歴史書に見られる巨大災害」, 2007 年 6
月 5 日
- 愛知工業大学公開講座地域防災研究センター講座、「地震よもやま話 災害研究の裏話」, 2007 年 6 月 19 日
- 大学コンソシアムせと講演会、「地震がくるまで 9, 8, 7・・・1 秒」, 2007 年 7 月 24 日
- 東海圏プロジェクト分科会勉強会、「名古屋地盤の形成と地震災害」, 2007 年 7 月 31 日
- 愛知県商工会議所、「尾張・三河地域の企業防災力の向上」, 2007 年 8 月 23 日
- 愛知工業大学オープンフォーラム岐阜会場、「地震がくるまで 9, 8, 7・・・1 秒」, 2007 年 8 月 25 日
- 愛知教育大学 SPP (サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト) 事業支援講義および見学会、「巨大地震の
仕組みと緊急地震速報」, 2007 年 9 月 15 日・29 日
- 災害時要援護者の避難支援、避難生活支援セミナー、「緊急地震速報をどう活用するか」, 2007 年 9 月 21 日
- 愛知工業大学公開講座本山キャンパス特別講座、「緊急地震速報を体験しよう」, 2007 年 9 月 28 日
- 中村生涯学習センター後期主催講座、「大地震、その日に備えて～その時、八社学区は?」, 2007 年 10 月 6 日
- 被災建築物応急危険度判定士講演会、「地震に関する講演～緊急地震速報の仕組みと活用事例～」, 2007 年 10
月 10 日
- 名古屋商工会議所、「製造業のための地震防災対策事例集活用セミナー」, 2007 年 10 月 12 日
- 東海市コミュニティ連絡協議会研修会、「中越沖地震に見る東海市の現状は」, 2007 年 12 月 7 日
- 中川生涯学習センター地域防災実践講座第 1 回、「東南海地震に備えて～その時、荒子学区はどうなるか?」,
2008 年 1 月 26 日
- 岡崎商工会議所セミナー、「被災後早期事業継続を可能にする企業防災戦略～今何故 BCP か?」, 2008 年 1 月
31 日
- 第 12 回震災対策技術展横浜会場講演会、「製造業のための地震防災対策事例集」, 2008 年 2 月 1 日
- 西三河住宅フェア特別講演、「あなたは大丈夫ですか? 来るべき大地震への備え」, 2008 年 2 月 2 日
- 豊田西ロータリクラブ例会卓話、「地震と強いものづくり」, 2008 年 2 月 4 日
- 愛知県平成 19 年度無線管理者研修会、「緊急地震速報の仕組みと活用～迫り来る東南海地震・南海地震連動型
地震対策に向けて～」, 2008 年 2 月 14 日
- 春日井コミュニティ推進連絡協議会、「地震が来ます 10, 9, 8、・・秒!! 「気象庁緊急地震速報が始まりました」」,
2008 年 2 月 16 日
- 知多石油コンビナート等特別防災区域保安安全連絡協議会 (防災研究会兼防災管理者勉強会)、「東海地震におけ
る石油コンビナート地域の地震防災対策」, 2008 年 2 月 22 日
- 名古屋市域石油コンビナート等特別防災区域協議会防災講演会、「石油コンビナート防災対策に活かす緊急地震
速報～迫り来る 東海・東南海連動型地震対策に向けて～」, 2008 年 2 月 27 日
- 名古屋商工会議所セミナー、「地震から会社を守る～中小製造業のための BCP 策定セミナー～」, 2008 年 3 月
11 日
- 長久手町防災講演会、「大地震、その日に備えて～その時、長久手は?」, 2008 年 3 月 20 日

愛知県瀬戸保健所講演会, 「在宅療養者の災害時における支援～災害時に私たちは何ができるか～」, 2008年3月21日

田原臨海企業懇話会研修事業, 「巨大地震と企業防災対策～BCPを中心に～」, 2008年3月21日

【入倉孝次郎】

GRI 技術講演会, 「災害に強い国 (強災国) への整備に向けてー強震動予測と都市地下空間活用ー: 強震動予測の到達点と今後の展望, 建設交流館グリーンホール (大阪), 2007年4月5日

日本学術会議地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築シンポジウム, 「災害要因となる自然災害の解明と予測」, 日本学術会議, 2007年5月9日

平成18年度地盤情報データベース作成委員会報告会 特別講演, 「地盤情報を活かした強震動予測」, 大阪市立大学文化交流センター, 2007年6月1日

2007年度地盤工学会・研究発表会・技術者交流特別セッション招待講演, 「強震動予測の到達点と地盤工学への期待」, 名古屋国際会議場, 2007年7月5日

第10回京都大学国際シンポジウム, 「Recipe for Predicting Strong Ground Motions: State of the Art and Future Prospects」, Sheraton Bandung Hotel & Towers, 2007年7月28日

内閣府原子力安全委員会, 「市民参加懇談会 in 横浜」ー新潟県中越沖地震に学ぶーパネリスト, 新都市ホール, 2007年10月29日

金森先生京都賞受賞記念シンポジウム, 「Strong ground motions at the Kashiwazaki-Kariwa nuclear power plant during the Niigata chuetu oki earthquake」, 京都大学防災研究所, 2007年11月7日

第2回国際ワークショップ, 「長周期地震動と地下構造」 "Achievements and Overviews of Long-Period Ground Motion Prediction and Damage Potential Map for Great Subduction Earthquakes", 東京大学地震研究所, 2007年11月9日

平成19年度NOSA・JNES 2007シンポジウム, 「新潟中越沖地震と原子力施設の安全性」, パネリスト 有楽町朝日ホール, 2007年11月14日

栃木県立栃木高等学校創立111周年記念講演会, 2007年11月16日

北淡活断層シンポジウム2008, 「近畿地方を襲う近未来の大地震と防災」 「想定南海地震による強震動予測と大規模構造物の被害想定」, 北淡震災記念公園セミナーハウス, 2008年1月12日・13日

セミナー「地震は必ず起こる」ー電子産業、機械産業、医療システム, 発電所ではー地球上又は日本列島を襲う災害 特に地震について」, 航空会館, 2008年1月24日

SGST 平成19年度第6回定期研究会, 「新潟県中越沖地震から学ぶ原子力発電所の耐震安全性の課題」, 愛知工業大学本山キャンパス, 2008年2月20日

京都大学防災研究所研究発表講演会, 「2007年中越沖地震の震源破壊過程と強震動」, 京都テルサ, 2008年2月28・29日

安全フォーラム2008 (NSRF2008), - 原子力施設の耐震安全と安全研究ーパネル討論ー地質・地盤調査、地震動策定に関する研究ー, 東洋大学 井上円了ホール, 2008年2月29日

3大学連携ワークショップ'08, 地震災害とリスクマネージメントー市民と企業の防災力向上に向けー 基調講演「日本の強震動研究の現状」, 愛知工業大学本山キャンパス, 2008年3月1日

第5回都市地震工学国際会議, "NEW DEVELOPMENTS OF STRONG MOTION PREDICTION LEARNING FROM RECENT DISASTROUS EARTHQUAKES", コクヨホール, 2008年3月4日

日本地球惑星科学連合討論会,「日本地球惑星科学連合の法人化計画について」「地球惑星科学の現状と課題, コミュニティへの期待」, 東京大学本郷キャンパス理学部 1 号館 2 階小柴ホール, 2008 年 3 月 14 日

【建部謙治】

瀬戸市公民館トップセミナー講演,「住まいと防災」, 瀬戸市教育委員会, 2007 年 10 月 31 日

本山オープンカレッジ講演,「震災時の要援護者の行動、要援護者対策とボランティア活動」, 2007 年 10 月 9 日

第 65 回 AIT オープンフォーラム講演,「子どもと環境、ひとにやさしい住まい・まち」, 2007 年 9 月 22 日

【小池則満】

名古屋名北ロータリークラブ卓話会,「緊急地震速報の有効活用に向けて」, 2007 年 5 月 9 日

水シンポジウム 2007in あいち,「大規模・広域災害の備え～名古屋大都市圏を壊滅的被害からどう守るか」, パネルディスカッション, 2007 年 8 月 9 日

大規模・広域的水災への備えをみんなで考えるシンポジウム,「大規模・広域的水災への備えに向けて一発想の転換」 パネルディスカッション, 2008 年 3 月 28 日

【奥村哲夫】

第 40 回ダム技術講演討論会,「アスファルト表面遮水型アースダムの地震時被害と補修」, 中村吉男・大根義男・成田国朝・奥村哲夫・野村健一郎・島崎勝・水野孝浩, 2008 年 2 月

【南部世紀夫】

京都大学防災研究所巨大災害研究センターワークショップ 災害を観る 6,「地震被災度予測 GIS システムの開発」, キャンパスプラザ京都, 2008 年 2 月 21 日

【佐武直紀】

各種建築物の減衰データベース ―一般建築物の減衰データベース―, 日本建築学会 シンポジウム「建築物の減衰性能評価手法の高度化と耐震・耐風設計」, 建築会館ホール, 2007 年 11 月 13 日

地震防災のための耐震化啓発教材その他計測機器の開発, 東北大学大学院工学研究科(都市・建築学専攻, 災害制御研究センター) 第 11 回耐震工学研究会, 東北大学青葉記念会館, 2007 年 12 月 1 日

耐震化啓発教材『ぶるる』による木造住宅耐震化のポイント, クボタ松下電工外装 住まいの耐震化セミナー, 松下電工熊本ショールーム, 2007 年 12 月 8 日

耐震化啓発教材『ぶるる』による木造住宅耐震化のポイント, クボタ松下電工外装 研修会, ウエルド本社(石川・野々市町), 2008 年 3 月 29 日

【安江健一】

中津川市鉱物博物館講座,「阿寺断層がつくった町」, 中津川市鉱物博物館, 2007 年 11 月 4 日

加子母地域審議会主催講演会,「こうして加子母が生まれた! 太古と古代へタイムスリップ」, 中津川市加子母公民館, 2008 年 1 月 28 日

各種委員等

【正木和明】

中部近畿地方鉱山保安協議会委員

【入倉孝次郎】

日本学術会議会員

独立行政法人防災科学技術研究所客員研究員

文部科学省地震調査推進本部地震調査委員会委員、強震動評価部会長

科学技術・学術審議会測地学分科会臨時委員

内閣府中央防災会議専門調査会専門委員

内閣府原子力安全委員会専門委員

京都府地震被害想定調査委員会委員

強震観測事業推進連絡会議委員

地震防災評価機構運営会議委員

文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員

防災科学技術研究開発課題外部評価委員

社団法人日本地震学会監事

社団法人日本地震学会代議員

社団法人日本地震学会災害調査委員会委員

社団法人土木学会東海地震等巨大災害への対応特別委員会委員

社団法人土木学会巨大災害への対応検討特別委員会地震動部会委員

社団法人土木学会・日本建築学会京大地震対応共同研究連絡会地震動部会委員

財団法人震災予防協会監事

独立行政法人原子力安全基盤機構 地震ハザード評価分科会委員

財団法人地域地盤環境研究所評議員

独立行政法人大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員

分野別リアルタイム地震情報利活用の調査・研究 技術評価委員

原子力施設の耐震安全評価手法に関する調査 耐震安全評価手法検討会委員

国土交通省建築住宅性能機能基準検討会委員

原子力発電耐震設計専門部会委員、地震・地震動部会委員

【建部謙治】

インテリア学会東海支部長

日本インテリア学会大会（東海）大会委員長

こども環境学会大会（東海）実行副委員長

日本建築学会東海支部東海賞選定委員会委員

豊田市都市景観審議会会長

独立行政法人建築研究所「住宅・住環境の日常的な安全・安心性能向上のための技術開発に関する検討委員会」

委員、「ユニバーサルデザイン及び分野横断的課題への対応」分科会座長

【小池則満】

豊田市総合計画審議会委員
東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会 作業部会ファシリテーター

【阿部亮吾】

公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動基金（予備審査員）

【南部世紀夫】

リアルタイム地震情報利用協議会 データ伝送 WG 委員
地域安全学会 BCP 小委員会委員
地域安全学会 GIS 推進特別研究委員会委員

【佐武直紀】

日本建築学会 建築物の減衰と性能設計小委員会 委員

【廣内大助】

日本地理学会災害対応委員会委員
日本活断層学会渉外・広報委員会委員
地球惑星科学連合教育問題検討委員会委員
新修名古屋市史編集委員会専門委員（資料編「自然」担当）
活断層情報整備検討委員会委員（社団法人日本測量協会）
独立行政法人産業技術総合研究所活断層研究センター客員研究員
国立歴史民俗博物館共同研究員

地域防災研究センター委員 実績リスト

【著 書】

【正木和明】

正木和明，建部建治：製造業のための地震防災対策事例集，名古屋商工会議所，（2007.8）

【建部謙治】

建部謙治他，日本建築学会編：長周期地震動と建築物の耐震性，日本建築学会，東京，丸善，pp.300-333，（2007.12）

建部謙治他，独立行政法人建築研究所建築生産研究グループ布田健監修：安全安心な生活環境の設計手法、外構まわり，建築技術，東京，No.694，pp.164-165，（2007.11）

【西村雄一郎】

西村雄一郎：職場・家庭におけるジェンダー役割と生活時間配分 中国都市の生活空間－社会構造・ジェンダー・高齢者－，荒井良雄編，ナカニシヤ出版，pp.64-79，（2008.4）

西村雄一郎, 岡本耕平: 農村の都市化—工場通勤労働の開始と日常生活の変化— ヴィエンチャン平野の暮らし— 天水田村の多様な環境利用, めこん, pp.213-231, (2008.3)

山内太郎・大西秀之・西村雄一郎・岡本耕平: 生業転換とライフスタイルの変容— モンスーンアジアの生態史 第3巻— 暮らしと身体の生態史, 秋道智彌・阿部健一編, 弘文堂, pp.85-106, (2008.5)

【阿部亮吾】

阿部亮吾: ダンシング・オン・ザ・ステージ—「フィリピン・パプ」を地理学する, 村井忠政編著『トランスナショナル・アイデンティティと多文化共生—グローバル化時代の日系人』, 明石書店, pp431—455, (2007.4)

【廣内大助】

大西宏治, 廣内大助, 富田啓介: 実践地理教育の課題, (Ⅲ地理的技能の養い方・教え方, 3 災害・防災に関する生涯学習地理教育の試み), ナカニシヤ出版, p262, (2007.10)

廣内大助, 安江健一 他: ひだ・みの活断層を訪ねて—阿寺断層(15) 活動間隔の違い, 岐阜県活断層研究会, 岐阜新聞社, pp90, (2008.2)

廣内大助他: 新修名古屋市史—自然編自然, 新修名古屋市史資料編編集委員会, 名古屋市, p142—177, (2008.3)

【安江健一】

廣内大助, 安江健一 他: ひだ・みの活断層を訪ねて—阿寺断層(16) 断層せんべい, 岐阜県活断層研究会, 岐阜新聞社, pp91, (2008.2)

【論文】(審査付)

【正木和明】

Susumu Kurahashi, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura: Source model of the 2007 Noto-Hanto earthquake (Mw6.7) for estimating broad-band strong ground motion, Earth Planets Space, Vol.60, pp.89-94(2008.3)

佐口浩一郎・元木健太郎・瀬尾和大・正木和明: 濃尾平野西端部の不整形地下構造が平野西部の地震動に与える影響, 日本建築学会構造系論文集, Vol.73, No.628, 883-890, (2008)

【入倉孝次郎】

赤澤隆士, 入倉孝次郎: Meyer-Yamada のウェーブレットを利用した非定常地盤増幅特性の経験的評価, 日本建築学会構造系論文集, 第615号, 101—108, (2007.5)

Jorge Aguirre and Kojiro Irikura: Source Characterization of Mexican Subduction Earthquakes from Acceleration Source Spectra for the Prediction of Strong Ground Motions, Bulletin of the Seismological Society of America, 97: 1960—1969 (2007.12)

A. Nozu and K. Irikura: Strong-Motion Generation Areas of a Great Subduction-Zone Earthquake: Waveform Inversion with Empirical Green's Functions for the 2003 Tokachi-oki Earthquake, Bulletin of the Seismological Society of America, 98: 180—197 (2008.2)

【建部謙治】

建部謙治, 田村和夫, 高橋郁夫: 近年発生した大地震による中小企業の被災状況調査, 日本建築学会技術報告集, Vol.13, No.25, pp.341-346(2007.6)

【小池則満】

小池則満, 小林啓二, 栗田敬司: 災害時臨時ヘリポートの特性評価に関する研究, 日本航空医療学会雑誌, 第8巻, 第1号, PP.27-34, 2007.

小池則満, 乗京和生: 震災時における負傷者広域搬送システムを支える道路網整備に関する研究, 都市計画論文集, Vol.42-3, pp.619-624, (2007.)

小池則満, 正木和明, 内藤克己: 緊急地震速報の有効性評価に関する研究～大学キャンパスにおける避難訓練事例を通して～, 土木学会安全問題研究論文集, Vol.2, pp.71-76, (2007.)

【奥村哲夫】

Y.Nakamura, Y.Ohne, K.Narita, T.Okumura, K.Nomura, M.Shimazaki and T Mizuno : "Earthquake Damages and Remedial Works for An Earth Dam with Asphalt Facing", 75th Annual Meeting of ICOLD, pp.1-12 , (2007.6)

井田剛史, 平野廣和, 有田新平, 佐藤尚次, 奥村哲夫: スロッシング発生時の貯槽浮屋根挙動の一考察—φ4000 タンクモデルでの振動実験, 土木学会論文集, Vol.63, No.3, pp.444-453, (2007.7)

【西村雄一郎】

西村雄一郎, 岡本耕平, ソムキット ブリダム: ラオス首都近郊農村における GPS・GIS を利用した村落住民の生活行動調査, 地学雑誌, pp.568-581, (2008.4)

【佐武直紀】

福和伸夫, 佐武直紀, 原徹夫, 太田賢治, 飯沼博幸, 鶴田庸介, 飛田潤: 長周期構造物の応答を再現するロングストローク簡易振動台の開発, 日本建築学会技術報告集, 第25号, pp.55～58 (2007.6)

【廣内大助】

Kazuaki Hori, Ryota Kuzumoto, Daisuke Hirouchi, Masatomo Umitsu, Naruekamon Janjirawuttikul, Boonrak Patanakanog, Horizontal and vertical variation of 2004 Indian tsunami deposits: an example of two transects along the western coast of thailand, Marine Geology 239号 Elsevier(商業誌), p163-172, (2007.4)

廣内大助, 安江健一, 内田主税, 平松孝晋, 谷口薫, 杉戸信彦, 金田平太郎: 完新世における阿寺断層帯湯ヶ峰断層の断層活動, 活断層研究(活断層研究会), 27号, P201-209, (2007.6)

田力正好, 杉戸信彦, 澤祥, 谷口薫, 廣内大助, 松多信尚, 佐藤善輝, 石黒聡士, 安藤俊人, 内田主税, 坂上寛之, 隈元崇, 渡辺満久, 鈴木康弘: 糸魚川—静岡構造線活断層帯中部, 諏訪盆地北東縁の変動地形とその認定根拠, および変位速度分布, 活断層研究(活断層研究会), 27号, P147-168, (2007.6)

澤祥, 谷口薫, 廣内大助, 松多信尚, 内田主税, 佐藤善輝, 石黒聡士, 田力正好, 杉戸信彦, 安藤俊人, 隈元崇, 佐野滋樹, 野澤竜二郎, 坂上寛之, 渡辺満久, 鈴木康弘: 糸魚川—静岡構造線活断層帯中部, 松本盆地南部, 塩尻峠および諏訪湖南岸断層群の変動地形の再検討, 活断層研究(活断層研究会), 27号, P169-190, (2007.6)

【安江健一】

廣内大助, 安江健一, 内田主税, 平松孝晋, 谷口薫, 杉戸信彦, 金田平太郎: 完新世における阿寺断層帯湯ヶ峰断層の断層活動, 活断層研究 (活断層研究会), 27号, P201-209, (2007.6)

【論文】(研究報告集、紀要等)

【正木和明】

酒井博之, 正木和明, 「岡崎平野の地下構造調査及び強震動特性」, 愛知工業大学研究報告, 第43号, (2008.3)

【入倉孝次郎】

入倉孝次郎: 新潟県中越沖地震から学ぶ原子力発電所の耐震安全性の課題—基準地震動評価のために考慮すべきこと—, 日本地震工学会会誌第7号 (2008.1)

Kojiro Irikura: Predicting strong ground motions with a “Recipe”, Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo, Vol. 81, pp.341-352, (2007.)

【建部謙治】

建部謙治, 小橋勉, 田村和夫, 高橋郁夫: 大地震時における中小企業の事業継続計画に関する研究, 愛知工業大学研究報告, 第43号B, (2008.3)

【廣内大助】

鈴木康弘, 渡辺満久, 廣内大助, 杉戸信彦, 三重県: 三重県内活断層図 (その2: 中南勢及び周辺地域), 三重県・国立大学法人名古屋大学共同研究「活断層の位置情報の整備に関する調査研究」成果, 三重県, (2007)

【その他 (報告書など)】

【正木和明】

倉橋奨, 正木和明, 入倉孝次郎: 新潟県中越沖地震および能登半島地震の震源モデルの構築と強震動予測レシピの有効性の検証, 3大学連携国際ワークショップ予稿集, 0-12, (2008.3)

上田竹寛, 倉橋奨, 正木和明, 入倉孝次郎, 「P波マグニチュードによる高精度震度予測」, 3大学連携国際ワークショップ予稿集, 0-13, 2008.3)

【西村雄一郎】

西村雄一郎: 災害時の企業従業員の生活時間変化と復旧活動参加—中越地震製造業従業員の事例から—, 愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書, pp.111-114 (2007.10)

小池則満, 正木和明, 西村雄一郎, 村松佑規, 山村良太: 愛知工業大学における緊急地震速報を用いた避難訓練について, 3大学連携国際ワークショップ予稿集, (2008.3)

【阿部亮吾】

阿部亮吾: 移民の現在／多文化共生の未来, 『移民の現在／多文化共生の未来 Migrants Today / the Future of Multicultural Society』, カルチュラル, タイフーン 2007 報告書編集委員会, pp1 - 5, (2008.3)

【学会発表・プロシィーディングス】

【正木和明】

- 倉橋奨, 正木和明, 入倉孝次郎: 穴水町における微動および余震記録の比較, 日本地球惑星科学連合 2007 年合同大会予稿集, Z255-P040, CD-ROM(2007.5)
- 田頭庄三, 正木和明, 入倉孝次郎, 倉橋奨: 常時微動による高層住宅振動測定結果に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), 21299, pp.597-598(2007.8)
- 倉橋奨, 正木和明, 入倉孝次郎: 時間領域における非定常サイト特性の評価, 土木学会第 62 回年次学術講演会講演概要集, I-533, pp.1061, CD-ROM (2007.9)
- 正木和明, 檜下峰治, 倉橋奨, 入倉孝次郎: 半経験的手法による猿投 - 高浜断層帯近傍の強震動評価, 土木学会第 62 回年次学術講演会講演概要集, I-529, pp.1053, CD-ROM(2007.9)
- 上田竹寛, 倉橋奨, 正木和明, 入倉孝次郎: 緊急地震速報のための P 波マグニチュードの提案, 日本地震学会講演予稿集 2007 年度秋季大会, A22-03, pp.18(2007.10)
- 正木和明, 倉橋奨, 上田竹寛, 入倉孝次郎: 緊急地震速報のための震度予測の高度化, 日本地震学会講演予稿集 2007 年度秋季大会, A22-04, pp.18(2007.10)
- 倉橋奨, 正木和明, 入倉孝次郎: 振幅と位相を考慮した経験的サイト特性の評価, 日本地震学会講演予稿集 2007 年度秋季大会, B31-02, pp.61(2007.10)
- 倉橋奨, 正木和明, 入倉孝次郎: 経験的グリーン関数法を用いた 2007 年新潟県中越沖地震の震源モデル, 日本地震学会講演予稿集 2007 年度秋季大会, P1-079, pp.188(2007.10)
- 佐口浩一郎・倉橋奨・正木和明・入倉孝次郎: 2007 年新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原子力発電所における強震動特性と地盤構造の同定, 日本地球惑星科学連合 2008 年大会予稿集 (CD-ROM), S146-P013, (2008)

【入倉孝次郎】

- 入倉孝次郎: セグメントを考慮した長大断層の地震のスケーリング則, 日本地球惑星科学連合 2007 年大会、幕張メッセ国際会議場, (2007.5)
- K. Irikura, T. Kagawa, K. Miyakoshi and S. Kurahashi: Scaling relation of mega-fault systems considering fault segmentation, IUGG, Perugia Italy, (2007.7)
- K. Irikura, T. Kagawa, K. Miyakoshi and S. Kurahashi: Rupture process and strong ground motions of the 2007 Niigataken Chuetsu-Oki earthquake -Directivity pulses striking the Kashiwazaki-Kariwa Nuclear Power Plant-, The 2007 SCEC Annual Meeting, Palm Springs, CA, (2007.9)
- 入倉孝次郎: 最近の内陸地震の強震動観測記録に基づく強震動予測レシピの検証, 日本地震学会秋季大会、仙台国際センター, (2007.10)
- K. Irikura and S. Kurahashi: New developments of strong motion prediction learning from recent disastrous earthquakes, Fifth International Conference on Urban Earthquake Engineering, pp15-24, Tokyo Institute of Technology, Tokyo, Japan, (2008.3)

【建部謙治】

- 建部謙治: 企業防災診断システム構築のための防災カルテに関する研究, 日本建築学会東海支部研究報告集, 第 46 号, pp.613-616, (2008.2)

建部謙治：住宅用火災警報器の有効性，日本インテリア学会大会研究発表梗概集，No.19，pp59-60，(2007.10)

吉岡竜巳，建部謙治：小中学校の教師の防災教育に対する意識の調査，日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1，pp.973-974，(2007.8)

建部謙治：上りスロープにおける車椅子走行実験調査，日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1，pp.88-882，(2007.8)

吉岡竜巳，建部謙治：小学校児童を対象とした避難シミュレータの開発と有効性について，3 大学連携ワークショップ，(2008.3)

小橋勉，建部謙治：BCP 概念図の企業防災への適用可能性の検討，3 大学連携ワークショップ，(2008.3)

小橋勉，建部謙治：企業防災の評価軸についての取り組みの回顧と展望，愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書，Vol.3,pp.58-60 (2007.10)

建部謙治，小橋勉，田村和夫，高橋郁夫：地震時における中小企業の被害予測に関する研究，愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書，Vol.3，pp.61-63 (2007.10)

建部謙治，小橋勉，田村和夫，高橋郁夫：防災カルテを活用した企業防災診断システムの開発，愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書，Vol.3，pp.64-67 (2007.10)

【小池則満】

小池 則満，正木 和明：大学キャンパスにおける緊急地震速報の有効性に関する一考察，第 62 回土木学会年次講演会講演概要集，1-640，(2007.9)

齋藤 成彦，小池則満：高速道路事故におけるドクターヘリコプターの参加した救急活動に関する研究，第 62 回土木学会年次講演会講演概要集，4-136，(2007.9)

二村 禎晃，小池 則満：ドクターヘリコプターの普及と社会的指標の因果関係に関する一考察，第 62 回土木学会年次講演会講演概要集，4-147，(2007.9)

【西村雄一郎】

Yuichiro Nishimura and Kohei Okamoto：The Changes of daily activity and subsistence complex: Time-geographic analysis using GPS and GIS in Dongkhuwaai village, Laos. The Association of American Geographers 2007 Annual Meeting, San Francisco, California (2007. 4)

西村雄一郎，岡本耕平：ヴィエンチャン近郊農村における工場通勤労働の開始と日常生活の変化，2007 年度日本地理学会秋発表予稿集，72，18 (2007.10)

池口明子，西村雄一郎：家族労働の世代差と資源利用活動，2007 年度日本地理学会秋発表予稿集，72，20 (2007.10)

【阿部亮吾】

ABE Ryogo：International Migration and Filipino Female Entertainers to Japan: The Space of Philippine Pubs in Sakae Walk Streets, Nagoya City, The 4th International Conference on Population Geographies (Chinese University of Hong Kong), pp29, (2007.7)

【南部世紀夫】

南部 世紀夫，大窪 健之：市街地延焼シミュレーションによる延焼防止のための必要水量算定手法の検討，日本建築学会学術講演梗概集 A-2，pp179 - 180 (2007.8)

南部世紀夫, 大嶋昌巳, 矢代晴実: B C Pにおけるライフラインの被害と復旧の扱いに関する考察, 地域安全学会, 秋季研究発表会梗概集, 21, pp91 - 94 (2007.11)

【佐武直紀】

佐武直紀, 小出栄治: 建物耐震化と防災意識啓発のための木造倒壊実験教材の開発, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), B-2 分冊, pp.629 - 630, (2007.8)

小出栄治, 佐武直紀: 耐震教育、啓発用の小型二軸振動台の開発, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), B-2 分冊, pp.631-632, (2007.8)

太田賢治, 佐武直紀, 内山成和, 和久野正人, 五江渕通: 救助活動用地震検知, 警報装置「W-Seis」の開発, 物理探査学会平成 19 年度秋季学術講演会講演論文集, pp.59-61, (2007.10)

佐武直紀, 太田賢治, 内山成和, 岡田雄二: 救助活動用早期地震検知, 警報装置の開発, 日本地震工学会, 大会 2007 梗概集, pp.354-355, (2007.11)

【廣内大助】

田力正好, 杉戸信彦, 糸魚川一静岡構造線活断層帯重点調査観測変動地形グループ (廣内大助ほか): 糸魚川一静岡構造線活断層帯中北部, 諏訪湖北岸～茅野付近の変動地形と諏訪盆地の形成, 日本地球惑星科学連合 2007 年大会, S141-P015, (2007.5)

杉戸信彦, 澤祥, 田力正好, 松多信尚, 谷口薫, 糸魚川一静岡構造線活断層帯重点調査観測変動地形グループ (廣内大助ほか): 糸魚川一静岡構造線活断層帯北部の白馬村・池田町におけるボーリング調査 (速報), 日本地球惑星科学連合 2007 年大会, (2007.5)

澤祥, 渡辺満久, 鈴木康弘, 谷口薫, 田力正好, 杉戸信彦, 廣内大助, 松多信尚, 糸魚川一静岡構造線活断層帯重点調査観測変動地形グループ: 糸魚川一静岡構造線活断層帯中北部 (松本～諏訪～茅野) の変動地形調査および航測解析による平均変位速度解明, 日本地球惑星科学連合 2007 年大会, S141-P013, (2007.5)

渡辺満久, 鈴木康弘, 澤祥, 谷口薫, 糸魚川一静岡構造線活断層帯重点調査観測変動地形グループ (廣内大助ほか): 糸魚川線活断層帯の「塩尻峠ギャップ」への疑問, 日本地球惑星科学連合 2007 年大会, S141-005, (2007.5)

Goto, H., Y. Suzuki, S. Ishiguro, N. Sugito, D. Hirouchi, H. Tsutsumi, D. Enkhtaivan, O. Batkhishig, S. Narangerel, N. Purevsuren, and O.Sukhbaatar, Extended: Distribution of active faults in the eastern part of the Gobi-Altay Mountains, based on interpretation of CORONA satellite photographs, Conference Commemorationg the 50th Anniversary of the 1957 Gobi-Altay Earthquake, Ulaanbaatar MONGOLIA, abstract S1_07, (2007.7)

道家涼介, 佐藤善輝, 安江健一, 廣内大助: 岐阜県中津川市, 加子母川左岸における阿寺断層帯中部の変動地形と露頭, 日本地質学会第 114 年学術大会講演要旨, p.277 (2007.9)

後藤秀昭, 杉戸信彦, 鈴木康弘, 石黒聡士, 廣内大助, 堤浩之, D. Enkhtaivan, O. Batkhishig, N. Purevsuren, S. Narangerel, E. Avirmed, M. Otgonbayar, O. Sukhbaatar: モンゴル・ゴビアルタイ断層帯の活断層と地震断層の分布, 東北地理学会 2007 年度秋季学術大会, (2007.10)

廣内大助, 安江健一, 道家涼介, 佐藤善輝, 谷口薫, 杉戸信彦, 内田主税, 平松孝晋, 北川早穂子, 坂本 勉, 西村雄一郎, 倉橋奨: 阿寺断層帯中部、中津川市加子母地区における古地震調査 (速報), 日本地震学会 2007 年秋季大会, P2-043, (2007.10)

Sugito, N., H. Goto, Y. Suzuki, S. Ishiguro, D. Hirouchi, H. Tsutsumi, D. Enkhtaivan, O. Batkhishig, S. Narangerel, N. Purevsuren, E. Avirmed, M. Otgonbayar, and O. Sukhbaatar, Distribution of active faults and recent earthquake ruptures along the Gobi-Altai active fault zone, southern Mongolia, AGU, 88(52), Fall

Meeting, California USA, Abstract T43B-1355, (2007.12)

澤祥, 松多信尚, 杉戸信彦, 糸静線重点調査変動地形グループ (廣内大助ほか): 糸魚川-静岡構造線活断層帯中南部, 茅野~富士見~白州の変動地形の再検討と写真測量システムを利用した詳細平均変位速度解明, 日本地理学会 2008 年春季学術大会, P112, (2008.3)

杉戸信彦, 松多信尚, 澤祥, 糸静線重点調査変動地形グループ (廣内大助ほか): 変動地形の詳細解析にもとづく糸静線活断層帯中南部, 茅野~白州の断層構造と変位様式, 日本地理学会 2008 年春季学術大会, P184, (2008.3)

【安江健一】

道家涼介, 佐藤善輝, 安江健一, 廣内大助: 岐阜県中津川市, 加子母川左岸における阿寺断層帯中部の変動地形と露頭, 日本地質学会第 114 年学術大会講演要旨, p.277 (2007.9)

廣内大助, 安江健一, 道家涼介, 佐藤善輝, 谷口薫, 杉戸信彦, 内田主税, 平松孝晋, 北川早穂子, 坂本 勉, 西村雄一郎, 倉橋奨: 阿寺断層帯中部、中津川市加子母地区における古地震調査 (速報), 日本地震学会 2007 年秋季大会, P2-043, (2007.10)